

カリキュラムマップ

人文科学研究科史学専攻 博士課程前期 R4年度以降入学生適用 (学位：修士(文学))

ディプロマ・ポリシー (DP)

人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に学位を授与する。

【知識・理解】

DP1：専門分野において自らの研究課題を発見し、その問題解決のための方法とそれを論文の形式で表現することができる。

【技能】

DP2：史資料に対して深い理解を有し、高度な専門的知識にもとづいて文化遺産の調査・保存・活用に従事できる。

【態度・志向性】

DP3：研究倫理に関する基本的な規範意識を身に付けている。

DP4：自らの研究課題とその解決方法を論文の形式で表現する意欲を持っている。

DP5：専門的知識を文化遺産の調査・保存に活用する意欲を持っている。

*3つのポリシー DPと

特に強く関連：◎ 強く関連：○

部門	授業科目名	単位数	配当年次	期別	知識・理解	技能	態度・志向性		
					DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
日本史専修	日本史演習	4又は8	1	2年通年	◎			○	
	日本史特講Ⅰa	2	1	前期	◎		○		
	日本史特講Ⅰb	2	1	後期	◎		○		
	日本史特講Ⅰc	2	1	前期	◎		○		
	日本史特講Ⅰd	2	1	後期	◎		○		
	日本史特講Ⅱa	2	1	前期	◎		○		
	日本史特講Ⅱb	2	1	後期	◎		○		
	日本史特講Ⅱc	2	1	前期	◎		○		
	日本史特講Ⅱd	2	1	後期	◎		○		
	日本史特講Ⅲa	2	1	前期	◎		○		
	日本史特講Ⅲb	2	1	後期	◎		○		
	日本史特講Ⅲc	2	1	前期	◎		○		
	日本史特講Ⅲd	2	1	後期	◎		○		
	日本史特講Ⅳa	2	1	前期	◎		○		
	日本史特講Ⅳb	2	1	後期	◎		○		
	日本史特講Ⅳc	2	1	前期	◎		○		
	日本史特講Ⅳd	2	1	後期	◎		○		
	日本史特講Ⅴa	2	1	集中前期	◎		○		
	日本史特講Ⅴb	2	1	前期	◎		○		
	日本史特講Ⅴc	2	1	集中前期	◎		○		
日本史特講Ⅴd	2	1	前期	◎		○			
日本史特講Ⅵa	2	1	前期	◎		○			

	日本史特講Ⅵb	2	1	後期	◎		○		
	日本史特講Ⅵc	2	1	前期	◎		○		
	日本史特講Ⅵd	2	1	後期	◎		○		
	日本史史料講読A	4	1	通年		◎			○
	日本史史料講読B	4	1	通年		◎			○
東洋史専修	東洋史演習	4又は8	1	2年通年	◎			○	
	東洋史特講Ⅰa	2	1	前期	◎		○		
	東洋史特講Ⅰb	2	1	後期	◎		○		
	東洋史特講Ⅰc	2	1	前期	◎		○		
	東洋史特講Ⅰd	2	1	後期	◎		○		
	東洋史特講Ⅱa	2	1	前期	◎		○		
	東洋史特講Ⅱb	2	1	後期	◎		○		
	東洋史特講Ⅱc	2	1	前期	◎		○		
	東洋史特講Ⅱd	2	1	後期	◎		○		
	東洋史特講Ⅲa	2	1	前期	◎		○		
	東洋史特講Ⅲb	2	1	後期	◎		○		
	東洋史特講Ⅲc	2	1	前期	◎		○		
	東洋史特講Ⅲd	2	1	後期	◎		○		
	東洋史史料講読A	4	1	通年		◎			○
	東洋史史料講読B	4	1	通年		◎			○
西洋史専修	西洋史演習	4又は8	1	2年通年	◎			○	
	西洋史特講Ⅰa	2	1	前期	◎		○		
	西洋史特講Ⅰb	2	1	後期	◎		○		
	西洋史特講Ⅰc	2	1	前期	◎		○		
	西洋史特講Ⅰd	2	1	後期	◎		○		
	西洋史特講Ⅱa	2	1	前期	◎		○		
	西洋史特講Ⅱb	2	1	後期	◎		○		
	西洋史特講Ⅱc	2	1	前期	◎		○		
	西洋史特講Ⅱd	2	1	後期	◎		○		
	西洋史特講Ⅲa	2	1	前期	◎		○		
	西洋史特講Ⅲb	2	1	後期	◎		○		
	西洋史特講Ⅲc	2	1	前期	◎		○		
	西洋史特講Ⅲd	2	1	後期	◎		○		
	西洋史特講Ⅳa	2	1	前期	◎		○		
	西洋史特講Ⅳb	2	1	後期	◎		○		
	西洋史特講Ⅳc	2	1	前期	◎		○		
	西洋史特講Ⅳd	2	1	後期	◎		○		
	西洋史特講Ⅴa	2	1	集中前期	◎		○		
	西洋史特講Ⅴb	2	1	集中後期	◎		○		
	西洋史特講Ⅴc	2	1	前期	◎		○		
	西洋史特講Ⅴd	2	1	集中後期	◎		○		
	西洋史史料講読A	4	1	通年		◎			○
	西洋史史料講読B	4	1	通年		◎			○
考古学専修	考古学演習	4又は8	1	2年通年	◎			○	
	考古学特講Ⅰa	2	1	前期	◎		○		
	考古学特講Ⅰb	2	1	後期	◎		○		

考古学特講Ⅰc	2	1	前期	◎		○		
考古学特講Ⅰd	2	1	後期	◎		○		
考古学特講Ⅱa	2	1	前期	◎		○		
考古学特講Ⅱb	2	1	後期	◎		○		
考古学特講Ⅱc	2	1	前期	◎		○		
考古学特講Ⅱd	2	1	後期	◎		○		
考古学特講Ⅲa	2	1	前期	◎		○		
考古学特講Ⅲb	2	1	後期	◎		○		
考古学特講Ⅲc	2	1	前期	◎		○		
考古学特講Ⅲd	2	1	後期	◎		○		
考古学特講Ⅳa	2	1	集中前期	◎		○		
考古学特講Ⅳb	2	1	集中後期	◎		○		
考古学特講Ⅳc	2	1	集中前期	◎		○		
考古学特講Ⅳd	2	1	集中後期	◎		○		
考古学方法論A	4	1	通年		◎			○
考古学方法論B	4	1	通年		◎			○

※博士課程前期の修了の要件は、大学院に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。（ただし、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。）

・必要修得単位：32単位以上

必修科目：20単位（専修科目の演習8単位、特講8単位及び史料購読又は方法論A,Bいずれか4単位）

選択科目：12単位以上（専修科目又は他の専修部門の授業科目のうちから20単位以上）

※一つの専修部門を選定し、これをその学生の専修科目とする。

※専修科目の演習担当者を指導教員とし、授業科目の選択、学位論文の作成、その他研究一般についてその指導を受ける。

※特講a、b、c、dは授業内容を異にし、a、bとc、dは隔年で開講する。a、cは前期、b、dは後期に開講するものとする。

※専修科目の演習は2年間8単位の履修を原則とするが、他に選択科目として1年間4単位の履修を認めることがある。

・修士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。

演習科目・・・研究課題に関する議論を行う。論文執筆能力を身につける。

特講科目・・・研究課題に関する講義を行う。研究倫理の規範意識を身につける。

史料購読・方法論科目・・・史料・資料操作の訓練を行う。それらへの理解と調査・保存の能力を身につける。

1年次・・・研究テーマに関する現状把握と研究遂行に必要な基礎力の養成

・専攻全体および専修単位で行われるオリエンテーションに出席。指導教員から論文作成に関する指導を受けながら、「研究計画書」を作成する。

・指導教員が担当する「演習」において中間報告を行い、研究の進捗状況を報告する。教員や大学院生から指導・助言を受け、研究を進めていく上での問題点を明らかにするとともに、その解決方法について検討する。また、各専修の判断により、適宜、中間報告会を行い、研究の進捗状況を報告し、指導教員や他の教員および大学院生から広く指導・助言を受ける。

2年次・・・論文作成能力の養成

- ・ 1年次の総括を踏まえ、必要に応じて研究計画の見直しを行う。
- ・ 継続して「演習」などで研究成果を報告し、研究成果をまとめてゆくプロセスを学ぶ。一定レベル以上の研究成果が得られた場合には学会発表や論文投稿を行い、広く内外の評価を受ける。
- ・ 修士論文の論題を提出し、その後決定する主査・副査の指導を受ける。
- ・ 修士論文を提出する。修士論文の口頭試問（最終試験）を行い、主査・副査からの質疑に答える。修士論文発表会で研究成果を発表し、教員や学生からの質疑に答える。

カリキュラムマップ

人文科学研究科史学専攻 博士課程後期 H28年度以降入学生適用 (学位：博士(文学))

ディプロマ・ポリシー (DP)

人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に学位を授与する。

【知識・理解】

DP1：専門分野において既存の研究水準を超える新しい研究を体系的に行い、研究者として自立した活動ができる。

【技能】

DP2：史資料の調査・保存・活用に指導的な役割を果たすことができる。

【態度・志向性】

DP3：研究倫理に関する規範意識を身につけている。

DP4：専門分野において後進を指導し育成する資質や指導力を持っている。

DP5：専門分野において後進を指導し育成する意欲を持っている。

***3つのポリシー DPと**

特に強く関連：◎ 強く関連：○

部門	研究指導科目	単位数	配当年次	期別	知識・理解	技能	態度・志向性		
					DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
日本史専修	日本史学特別研究Ⅰ	12	1	3年通年	◎	○		○	
	日本史学特別研究Ⅱ	12	1	3年通年	◎	○		○	
	日本史学特別研究Ⅲ	12	1	3年通年	◎	○		○	
	日本史学特論Ⅰ	4	1	通年	◎		○		○
	日本史学特論Ⅱ	4	1	通年	◎		○		○
	日本史学特論Ⅲ	4	1	通年	◎		○		○
東洋史専修	東洋史学特別研究Ⅰ	12	1	3年通年	◎	○		○	
	東洋史学特別研究Ⅱ	12	1	3年通年	◎	○		○	
	東洋史学特論Ⅰ	4	1	通年	◎		○		○
	東洋史学特論Ⅱ	4	1	通年	◎		○		○
西洋史専修	西洋史学特別研究Ⅰ	12	1	3年通年	◎	○		○	
	西洋史学特別研究Ⅱ	12	1	3年通年	◎	○		○	
	西洋史学特論Ⅰ	4	1	通年	◎		○		○
	西洋史学特論Ⅱ	4	1	通年	◎		○		○
考古学専修	考古学特別研究Ⅰ	12	1	3年通年	◎	○		○	
	考古学特別研究Ⅱ	12	1	3年通年	◎	○		○	
	考古学特論Ⅰ	4	1	通年	◎		○		○
	考古学特論Ⅱ	4	1	通年	◎		○		○

※博士課程後期の修了の要件は、大学院に3年以上在学し、所定の研究指導科目について、合計12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。（但し、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。）

・必要修得単位：12単位以上

必修科目：12単位（専修科目の特別研究科目）

※研究指導科目のうちから一つの特別研究科目を選定し、これをその学生の専修科目とする。

※専修科目の研究指導（特別研究）担当者を当該学生の指導教員とし、学位論文の作成、その他研究一般について、その指導に従うものとする。

※指導教員が、当該学生の研究上特に必要と認めた場合には、専修科目以外の特論科目を履修することができる。

・博士の学位論文は、専修科目について提出するものとする。

特別研究科目・・・研究課題に関する議論、史料・資料操作の訓練を行う。専門分野における後進を指導し育成する資質や指導力、論文執筆能力を身につける。

特論科目・・・研究課題に関する講義を行う。専門分野における後進を指導し育成する意欲、研究倫理の規範意識を身につける。

1年次・・・研究課題構想能力の養成

・研究計画について指導教員と相談を重ね、博士論文の準備についての骨格をかためる。

・指導教員との綿密な議論のもとに研究成果を蓄積していく。指導教員が担当する「特別研究」において研究の進捗状況を報告する。指導教員から評価や助言・指導を受け、研究を進めていく上での問題点を明らかにするとともに、その解決方法について検討する。まとまった成果が得られたところで、学会等で積極的に発表し、広く内外の評価を受ける。

2年次・・・研究課題発表能力の養成

・1年次の研究経過を踏まえ、必要に応じて研究計画の見直しを行う。

・学位論文の提出に向け、継続して「特別研究」において研究の進捗状況を確認し、指導教員との綿密な議論を研究内容にフィードバックしていく。引き続き学会等で研究成果を積極的に発表し、広く内外の評価を受けるとともに、専門の学術誌に論文投稿を行い、査読審査を経験する。

3年次・・・論文作成能力の養成

・研究を進めるなかで引き続き学会や専門の学術誌に研究成果を発表し、広く内外の評価を受ける。これまでの研究業績および成果をまとめ、学位論文を作成する。指導教員の承認を経て、学位論文を提出し、学位審査請求を行う。学位論文の作成に際しては、指導教員から内容および構成に関して具体的な指導を受ける。

・博士学位申請論文の発表会（公聴会）（最終試験）を行う。研究成果を総括し、主査・副査および出席者からの質疑に答える。